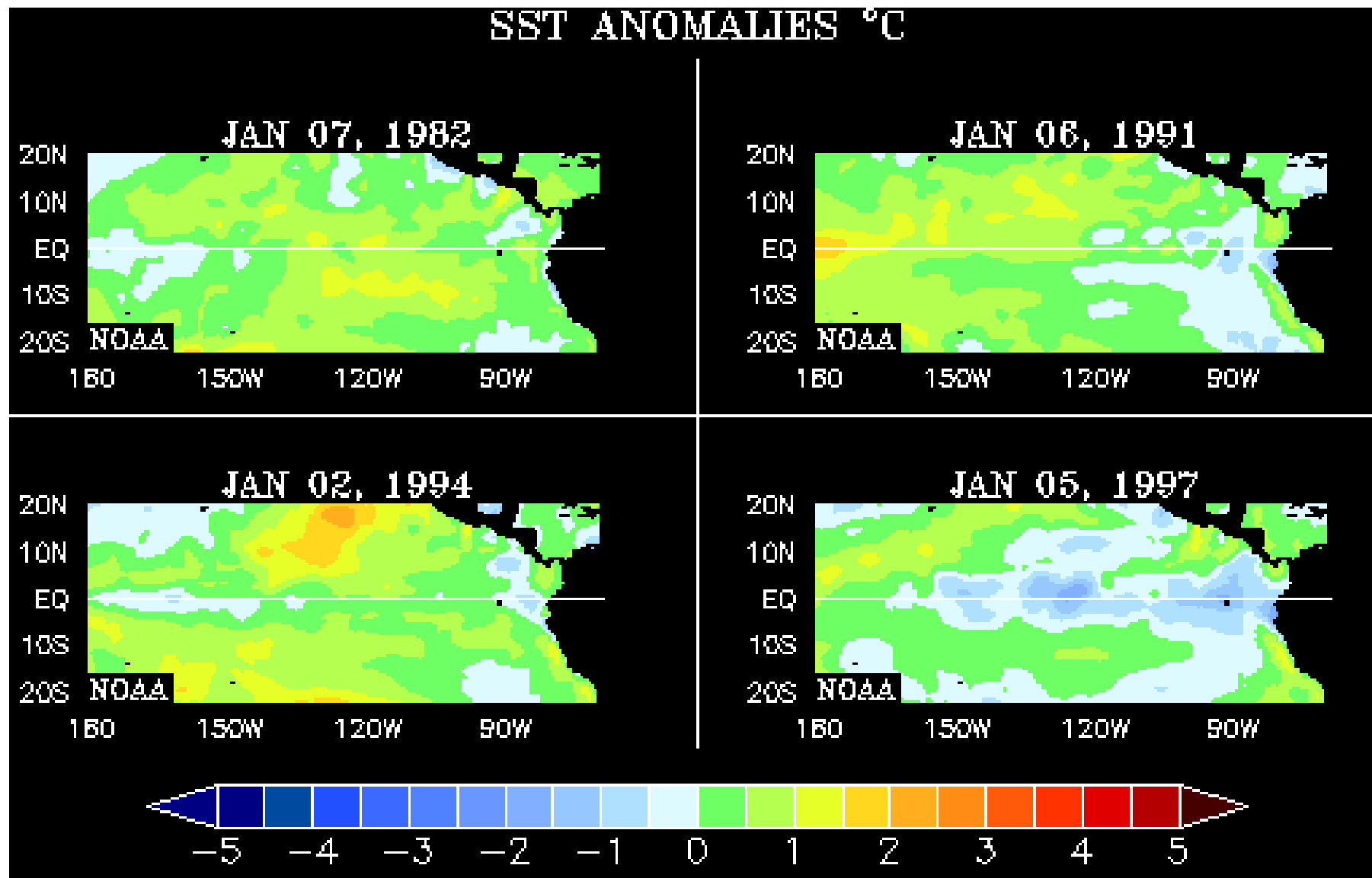


# エルニーニョ現象発生時の天候の特徴

| 発生時期     | 気温/降水      | 特 徴   |
|----------|------------|---|
| 夏（6～8月）  | 気温         | 中東～東アジアの中緯度帯に帯状の低温傾向の領域が広がり、この南側のインドで高温傾向となる。                           |
|          | 降水         | インドやインドネシア付近、オーストラリアなどの広い範囲で少雨傾向が見られ、赤道太平洋中部では多雨傾向となる。                  |
|          |            | 日本や中東～ヨーロッパ南部で多雨傾向が見られ、これらに隣接する中国内陸部やヨーロッパ中部で少雨傾向となる。                   |
|          |            | 北アメリカ西部で多雨、東部で少雨傾向  |
|          | アフリカや南米で少雨 |   |
| 冬（12～2月） | 気温         | アジア南部で高温傾向。中国北東部から東シベリアにかけて低温傾向。日本付近では高温傾向。北米や南米、アフリカ南部などで高温傾向。         |
|          | 降水         | 日本付近や中央アジア付近で多雨傾向。南米の南部やアメリカ合衆国南部なども多雨傾向。太平洋西部熱帯域やオーストラリアなどの広い範囲では少雨傾向。 |

# エルニーニョ発生時の海水温の変化



出典)NOAA

### **3. 異常気象等の発生状況**

## 北極圏の氷河、海氷

○イルサート氷河（グリーンランド中部西岸）が過去数年で10km以上も縮小

（2004年8月、気候変動に関する非公式会合）

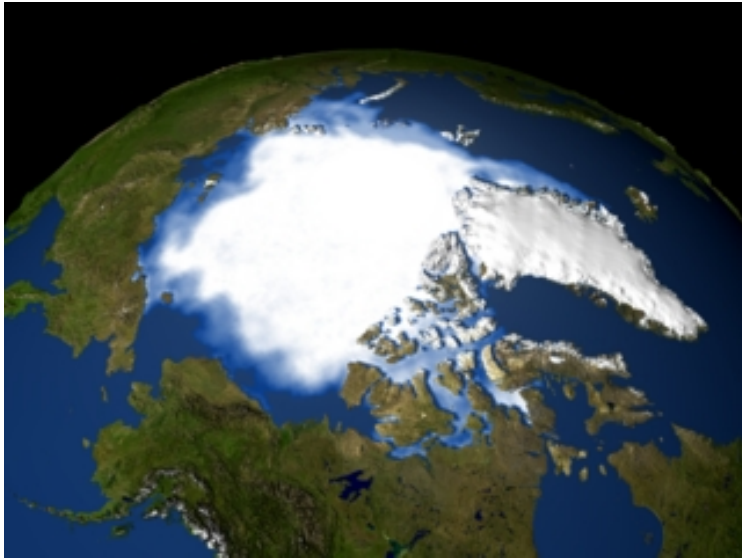
○北極では大幅な気温上昇により、大量の氷が消滅

（2004年11月、北極協議会：北極圏気候影響アセスメント報告書）

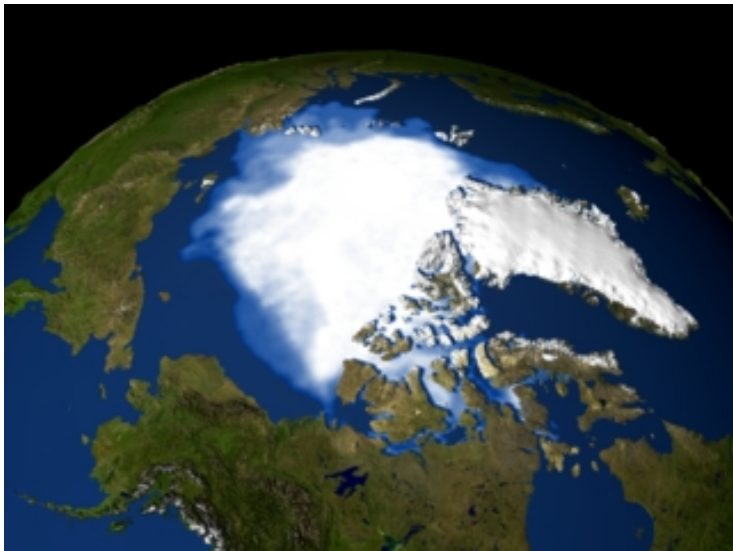
温暖化により北極の氷は早いスピードで融けており、過去30年で夏期の海氷の面積は20%減少。今世紀末までに、気温は4～7度上昇し、夏期の海氷面積は50%以上減少、グリーンランドの氷も減少

○減少を続ける北極海の氷が、2004～05年の冬季は観測史上初めて、冬季にも十分に回復できなかった

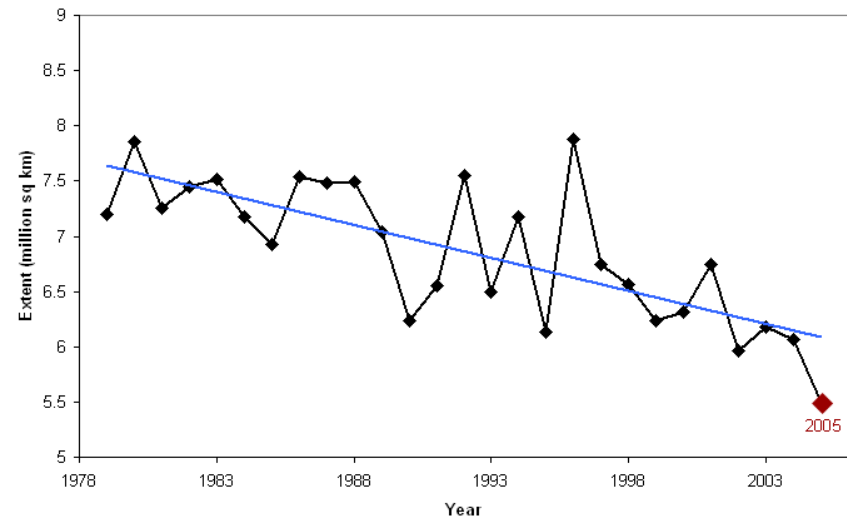
（2005年3月、米国雪氷データセンター）



北極の海氷(1979-1981年3年間の平均)



北極の海氷(2003-2005年3年間の平均)



9月の氷面積の変化傾向(1978-2005年)

出典: NASA/Goddard Space Flight Center  
Scientific Visualization Studio  
National Snow and ICE Data Center

# 南極の棚氷や氷床

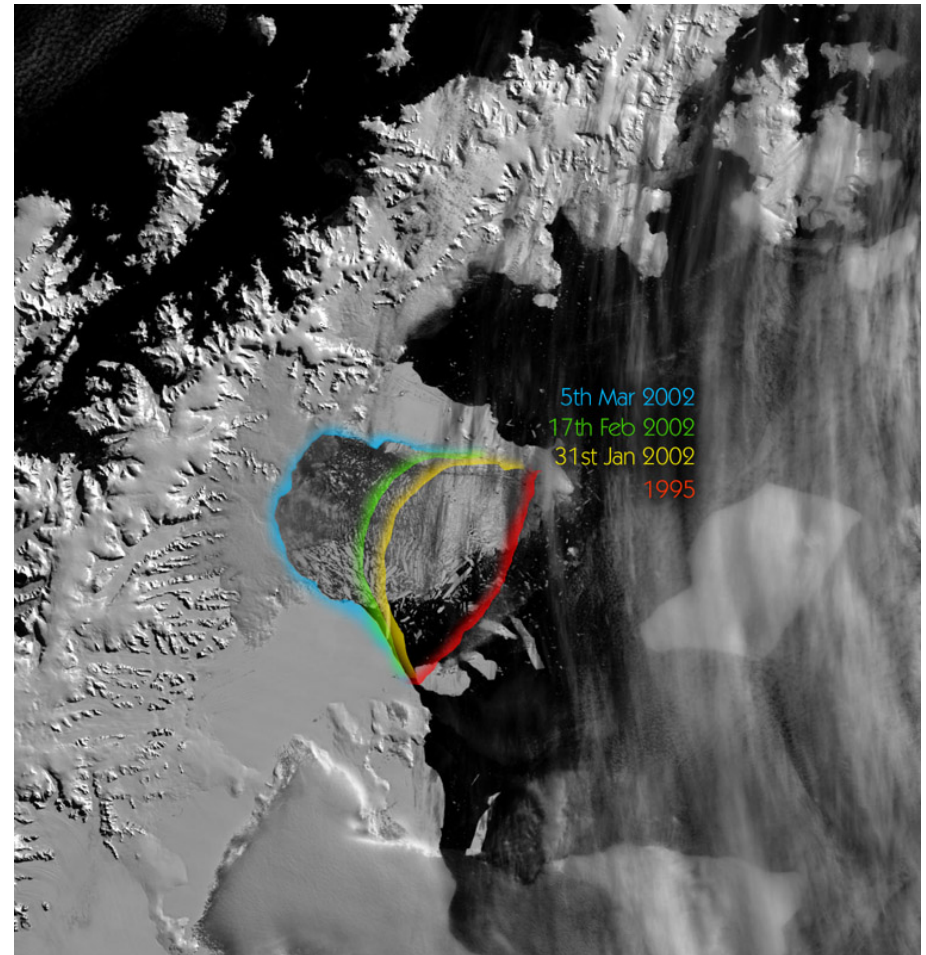
○南極の氷河流が加速(2004年9月24日 Science)

西南極のアムンゼン海に流れ込む6つの氷河が、この15年間に流れる速度を速めている

○南極半島のラルセンB棚氷の崩壊 (2005年8月4日、Nature)

最近の崩壊(2002年1月)は、完新世(約10000年前から現在)には先例のないものであり、氷が長期にわたり薄くなってきたことが、棚氷の崩壊を引き起こした

○南極域の海氷域面積の推移(気象庁 気候変動監視レポート2004)  
(減少・増加などの)目立った長期的傾向は見られない



出典) The British Antarctic Survey and  
National Snow and Ice Data Center